

## 富士電波工業株式会社

超高温加熱の技術で“ものづくりの環”をつなぐ工業用電気炉メーカー  
——時代を超えてわが国の先端材料産業の発展に貢献

ここに  
注目!

2000℃超が求められる高温真空炉でユーザーからの厚い信頼  
安定した財務体質と専門性を高める人材育成で「100年企業」を目指す

パワー半導体やEV車のモーターなど、脱炭素社会に不可欠な製品には、高温で熱処理された機能性の高い新素材が多く使われている。そうした高機能材料の製造や研究を、日常では想像もつかない超高温加熱の技術で支えているのが富士電波工業株式会社だ。高付加価値な特殊金属やセラミックスといった無機材料は日本が世界をリードする分野だが、富士電波

工業の納入先には日本を代表する多くの素材メーカーが名を連ねている。

戦後間もない1948（昭和23）年、創業者の横島信太郎氏がかねてから注目していた高周波誘導溶解炉の専門メーカーとしてスタート。朝鮮特需を契機に事業が軌道に乗り、高度経済成長期にはわが国の特殊鋼業界の発展に寄与した。1980年代に入るとファイ

セラミックスが脚光を浴び始め、この新素材にいち早く着目したのが2代目社長の横島洋志氏（現相談役）だ。ホットプレス炉や黒鉛ヒーター加熱式真空焼結炉へと主力製品の転換に挑み、業界に先駆けて顧客に納入することに成功した。とりわけ、セラミックスの研究開発用に特化して開発した多目的高温炉「ハイマルチ」は、公的研究機関、大学、企業の研究所を中心に約300台の納入実績を誇る。

### ユーザーニーズにとことん 応え続けて超高温加熱を実現

今や高温電気炉の用途は、金属・セラミックスだけでなくシリコンや黒鉛、石英などにも広がっているが、同社最大の特長は、競合の少ない2000℃以上の超高温炉を得意としていること。2017年には黒鉛ヒーター加熱では限界ともいえる3400℃超高温炉の開発にも成功し、多くの無機材料の研究者やメーカーから、「高温・真空なら富士電波工業」との評を得ている。この技術開発力の背景にあるのが、中小企業ならではのユーザーの要望にとことん応えるモノづくりの姿勢。横島俊夫社長は、「炉内で均一に保ちたい温度やエリア、冷却時間などユーザーの要望は様々。なかには極限状態のような仕様もあるが、コストの許す限り何とか応えようと創意工夫する。そんな経験を通じて多くの技術的知見が得られるし、その思直な姿勢が顧客との信頼関係の礎となる。次回も新たな技術



滋賀工場新事務所棟・AR再生（会社・製品案内）



太陽光発電を備えた滋賀工場

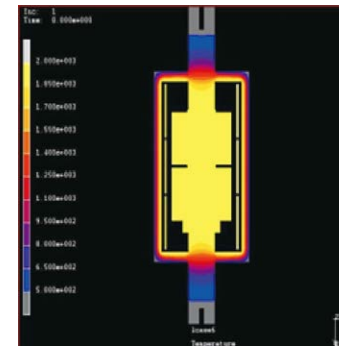


多目的高温炉「ハイマルチ」

課題を与えてもらえる」と、解説する。

### 強固な財務基盤と人材を 大切に経営

技術力だけでなく、明確な経営方針にも強みがある。その一つが健全な財務体質。一度納入すれば長く使用する製品だけに、ユーザーとの付き合いは数十年に及ぶことが多い。顧客から信頼されるには経営基盤の安定が重要と考えた2代目社長は、着任と同時に財務体質の改善に力を注いだ。その理念は3代目の俊夫社長にも受け継がれ、今なおほぼ無借金経営を



熱解析シミュレーション

続けている。もちろん利益を会社に蓄積するだけでなく社員への還元も手厚く、1970年代から期末決算賞与を支給し続けている。福利厚生でも退職金とは別に、確定拠出企業年金や養老保険も備えており、2021年には健康経営優良法人の認定を機に全社員対象の医療保険も導入した。

そして、何よりも重視しているのが社員の成長だ。「人材育成の方針は“一專多能”。いろいろな経験をした後は、第一人者と認められる専門性を磨いてほしい」と語る横島社長。年2回の面談や、専門職・管理職が選べるコース別



若い技術者が活躍する  
・AR再生（JobTube）

人事など、各人が持っている能力を存分に発揮できるような仕組みづくりに取り組んでいる。さらに経営理念に「和と挑戦」を掲げながら、「社員には失敗を恐れずに自己をレベルアップする行動を期待している」（横島社長）と言う。

2022年現在、高温電気炉への需要は高水準で推移しているが、今後はユーザーの炉の仕様検討をサポートする受託実験やシミュレーション、予知保全システムなどのサービスにも力を入れていくという富士電波工業。時代の変化に柔軟に対応し、新たな挑戦を続けていく。

### わが社を語る

代表取締役社長  
横島 俊夫氏



### 「ものづくりの環」をつなぎ続け100年企業を目指す

当社は当面の目標として「100年企業」を目指しております。現在、創業75年目。これからの四半世紀はこれまで以上に大きな環境変化に見舞われること必定です。でも大丈夫。当社の企業ビジョンは、お客様の研究開発から製品の量産、そしてリサイクルまでの流れを「ものづくりの環」ととらえ、その「環」を高温加熱の技術でつないで社会に貢献することです。この当社の

役割は、新素材開発とエネルギー利用の効率化が求められる脱炭素の時代にはいっそう重要になることでしょう。また、2021年に滋賀工場に建設した新たな事務所棟では、社員が生き生きと創造的な働き方が選べる自由なオフィスレイアウトを採用しています。準備を怠らず、これから仲間入りしてくれる未来の社員も含め、全社一丸となって百周年に向けて挑戦を続けてまいります。

### 会社 DATA

所在地：大阪市淀川区新高2丁目4番36号

設立：1948年（昭和23年）9月

代表者：横島 俊夫

売上高：36億99百万円（2021年8月期）

従業員数：135名

事業内容：工業用電気炉（高周波加熱装置、抵抗加熱式真空炉等）の製造・販売  
特殊鋼鑄造品の製造・販売、ソフトウェアの開発、加熱実験の受託  
機械器具設置工事業（大阪府知事許可（般-23）第136674号）

URL：https://www.fujidempa.co.jp



左記のQRコードを読み込んで「COCOAR」アプリ（無料アプリ）をインストールした後、アプリを起動し、画像にかざしてスキャンすると関連動画がご覧いただけます。

●有効期限：2022年9月30日より2年間

